

第5学年 算数科学習指導案

1 単元「小数のわり算」

2 指導観

- 本単元は、除数が小数の場合の除法の意味とその計算の仕方について理解し、それらを適切に用いることができるようにすることを主なねらいとしている。

具体的には、①除数が小数の場合の除法の意味について理解すること、②小数の除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること、③小数倍に関する2つの用法を理解し、それらを適切に用いることである。

本単元における考える内容の中心は、次のことである。

◎ これまでに学習してきた整数の除法、被除数が小数の場合の除法の考え方を基にして、数直線図やテープ図を用いたり、計算法則を用いたりするなどの工夫をしながら、除数が小数の場合の計算の仕方を考えること。

また、発展的な学習として、100分の1の位をもつ小数の除法の計算処理をする学習を行う。

これらのことは、既習を活用し筋道を立てて考えることや数学的な考え方を育成できることから意義深い内容である。また、これらの内容は、第6学年で学習する「分数のかけ算とわり算」へと発展していく。

- 本学年の児童たちは、これまでに整数の四則計算について学習してきた。また、小数については、小数の表し方とその意味、小数の性質、小数の加法・減法、被除数が小数の場合の除法、被除数が小数の場合の除法について学習してきた。本単元の既習は、第4学年までに学習した整数の除法、第5学年の1学期に学習した、小数×整数、小数÷整数、前単元で学習した整数×小数、小数×小数で行う計算処理と計算の仕方を考える際に用いた数学的な考え方などである。これまでの学習の様子から、計算の仕方を考える際に用いる既習が何かを見つけることはおおむねできるようになってきている。

また、考える力については、既習を生かして自分の考えを図を用いて表現することができるようになってきたが、図から式を考えたり、それを順序立てて言葉で説明したりすることができず、自ら駆使して自分の考えをつくるまでには至っていない児童もいる。また、学級のみんなで意見を出し合いながら数理を獲得していこうとする意識はついてきたが、自分の考えを筋道立てて説明することや、友だちの考えと比べながら、自分の考えを述べたり、共通点や相違点を見つけたりする力は不十分である。

- 本単元の指導にあたっては、これまでに計算の仕方を考える際に活用してきた既習を駆使しながら小数÷小数の計算の仕方や小数倍の第1用法や第3用法を考えていくことを通して、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

導入においては、整数÷小数の意味と計算方法について考える。ここでは、単位小数を用いる考えや計算のきまりを用いて除数を整数化する考えをつくることができるようにしたい。そのため、テープ図や数直線図を用いて、計算の仕方を考えたり、自分の考えの説明を図を使って行ったりできるようにする。また、「考えのもとカード」「かき方のわざカード」を活用し必要な既習を整理できるようにする。さらに、それぞれの考えを比較検討し、関連性や有用性を見いだしながら計算の仕方を一般化できるように、小集団による交流と全体交流を行う。

展開においては、純小数でわったときの商は被除数より大きくなることを理解する。その際、具体的な場面を数直線図や式と結んで話し合うようにする。さらに、余りの小数点の位置を考える学習では、具体的な場面にあてはめて調べる活動をもとに、間違いの根拠を話し合うことを通して、正しいきまりの求め方に気づくことができるようにしたい。

終末の比較量・基準量が小数のときも何倍かは除法で求められることを理解する学習では、数直線図を提示して数量の関係を的確にとらえられるようにする。数直線図を読み数量関係や意味をとらえ、それを式に表すところをていねいに扱うようにする。

発展的な学習や補充的な学習として、単元の中で学級内選択コースで行うよう計画している。

3 単元目標

- 除数が小数の場合でも、既習の整数の場合の数量関係などを基にして、除法の式に表そうとする。
- 整数の除法計算と関連づけて、除法が小数の除法計算の仕方を考える。
- 除数が小数の除法計算をすることができる。
- 除数が小数の除法の意味や計算の仕方を理解する。

4 指導計画（全12時間）

	第1時	第2時	第3・4時	第5時
目標	○ 既習の整数の除法と関連付けて小数でわることを意味を、図や言葉の式を用いて考えようとしている。(関・意・態) ◎ 既習の整数÷整数、小数÷整数などに関連づけて計算の仕方を考える。(数考)	◎ 既習の整数÷整数、小数÷整数などに関連づけて計算の仕方を考える。(数考) ○ 整数÷小数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。(知・理)	○ 小数どうしの除法の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。(知・理) ◎ 除法の性質を用いて既習の計算に帰着して、小数どうしの除法の筆算の仕方を考える。(数考)	○ 純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。(知・理)
型	数理獲得型—前半	数理獲得型—後半	数理獲得型	数理活用品
学習活動と内容	<p>1 本時の問題を把握し、立式する。</p> <p>問題</p> <p>リボンを2.5m買ったらい金は200円でした。リボン1mの値段は何円ですか。</p> <p>○200÷2.5の式になるわけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線や言葉の式での説明 ・整数÷整数の式になるわけを説明した既習の掲示物 <p>めあて</p> <p>1mの値段をもとめて整数÷小数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○整数÷小数の計算の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整数÷整数や小数÷整数、小数×小数の既習 ・除法の性質のふり返りの掲示物 <p>3 本時の学習をふり返る。</p> <p>(1)自分の考えを伝え合い、本時学習をふり返る。</p> <p>(2)次時のめあてを見いだす。</p>	<p>1 前時学習をふり返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>問題</p> <p>リボンを2.5m買ったらい金は200円でした。リボン1mの値段は何円ですか。</p> <p>めあて</p> <p>グループによる話し合いと、全体による話し合いを通して、整数÷小数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>2 考えを共有し、本時学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○整数÷小数の計算の仕方の一般化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わられる数もわる数も10倍して整数÷整数の計算 ・0.1の何こ分の考えを使い、整数÷整数の計算 ・2つの考えの比較検討 <p>【小集団による交流】</p> <p>目的：考えを強化、付加修正するため</p> <p>組み方：考えの方法別 人数：3人組(2人組)</p> <p>【全体による交流】</p> <p>①代表児が考えを発表 ②相違点・共通点を出し合う ③簡潔・明瞭・的確かどうか ④共通点を見だし、一般化</p> <p>まとめ</p> <p>整数÷小数の計算のしかたは、わられる数とわる数を10倍して整数にして計算するとよい。</p> <p>3 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題を把握し、めあてを見いだす。</p> <p>問題</p> <p>6.5mの重さが7.8kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。</p> <p>めあて</p> <p>小数÷小数の計算のしかたを考えよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○小数÷小数の計算の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整数÷小数の既習 ・除法の性質のふり返りの掲示物 <p>3 考えを共有し、本時学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○小数÷小数の計算の仕方の一般化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被除数と除数にそれぞれ10をかけ、整数のわり算として計算・小数÷小数の筆算 <p>まとめ</p> <p>小数÷小数の計算も、整数÷整数の計算になおして考えることができる。</p> <p>4 整数÷小数の計算の仕方を考える。</p> <p>5 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時の問題を把握し、めあてを見いだす。</p> <p>問題</p> <p>1.2mの代金が240円の青のリボンと、0.8mの代金が240円の赤のリボンがあります。1mのねだんは、それぞれいくらですか。</p> <p>めあて</p> <p>わる数と商の大きさの関係を調べよう。</p> <p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>○商と被除数の大きさを比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数直線図 ・二つの場面の式と答え <p>3 考えを共有し、本時学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>○商と被除数の大きさの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被除数を1より大きな除数で割ったときの商 ・被除数を1より小さい除数で割ったときの商 <p>まとめ</p> <p>小数のわり算では、1より小さい数でわると、その商はわられる数より大きくなる。</p> <p>4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p>
○は考える内容・は考える方法				

	第6時	第7時	第8時	第9時
目	○ 小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。(知・理) ◎ あまりの小数点の位置を被除数と関連させて考える。(数考)	○ 小数の除法の答えを概数で表すときの処理の仕方を理解する。(知・理)	○ 「ふり返りテスト」を行うことで、学習内容の定着度を確かめ、次の時間のコースを選択し、めあてをもつことができる。	○ 小数の乗除に関する問題の習熟を図る。(表・処)
型	数理活用法	数理活用法	習熟型	発展的・補足的な学習
学	1 本時の問題を把握し、めあてを見いだす。 問題 2.5 ℓのジュースを、0.7 ℓ入りの水とうに入れていきます。何個の水とうをいっぱいにできますか。また、何ℓありますか。	1 本時の問題を把握し、めあてを見いだす。 問題 1.4 ℓのすなの重さをはかったら、2.6kg ありました。このすな 1 ℓの重さは何kg ですか。四捨五入して、上から2けたのがい数で求めましょう。	1 今までの学習をふり返り、「ふり返りテスト」をする。 ①小数のかけ算 ②小数のわり算 ③小数の交換・結合・分配 ④小数倍	1 めあてを確認する。 めあて _____ () コースを選んで、 ()
習	めあて _____ 小数÷小数のあまりのある計算のしかたを考えよう。	めあて _____ 小数÷小数の商をがい数で表す方法を考えよう。	2 結果をもとにコースを選択する。 (補足的な学習ー パワーアップコース)	2 結果をもとにコースを選択する。 (補足的な学習ー パワーアップコース)
活	2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○ 小数÷小数のあまりのある計算の仕方 ・あまりのある小数÷整数、小数÷小数の筆算の既習	2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○ 小数の除法の商をがい数で表す。 ・□を用いた乗法の式 ・逆算で除法の式を導く ・四捨五入の既習	○ 整数÷小数、小数÷小数の計算処理 (あまりありとなし) ○ 小数のわり算の商をがい数で表す問題 ○ 小数のわり算で解く文章題 ○ 除数と商の関係を考える問題 (発展的な学習ー チャレンジコース)	○ 整数÷小数、小数÷小数の計算処理 (あまりありとなし) ○ 小数のわり算の商をがい数で表す問題 ○ 小数のわり算で解く文章問題 ○ 除数と商の関係を考える問題 (発展的な学習ー チャレンジコース)
動	3 考えを共有し、本時学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○ 小数÷小数のあまりのある計算の仕方 ・除法の性質 ・数直線図	3 考えを共有し、本時学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○ 小数の除法の商をがい数で表す。 ・上から何けための数を四捨五入するのか	○ 小数 (1/100の位) ÷ 小数 (1/10の位, 1/100の位) の計算処理 ○ 小数の筆算のかくれた数字を考える問題 (虫食い算) ○ わり算の計算のきまりの問題 ○ ふしぎなわり算の問題	○ 小数 (1/100の位) ÷ 小数 (1/10の位, 1/100の位) の計算処理 ○ 小数の筆算のかくれた数字を考える問題 (虫食い算) ○ わり算の計算のきまりの問題 ○ ふしぎなわり算の問題
と	4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	3 本時の学習をふり返る。	3 自分の考えをつくる。 ・各自のめあてにあったコースと問題に取り組む。
内	まとめ _____ あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうつ。	まとめ _____ 上から□けためのがい数を求めるには、□けたより1つ下のけたを四捨五入するとよい。		4 本時の学習をふり返る。
容				
○は				
考				
え				
る				
内				
容				
・				
は				
考				
え				
る				
方				
法				

	第10時	第11時	第12時
目標	○ 比較量, 基準量が小数のときも, 何倍かは除数で求められていることを理解する。(知・理)	○ 倍を表す数が小数のときも, 基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。(知・理)	◎ これまでの計算を整理し, できるようになったことを確認する。
型	数理獲得型	数理獲得型	エピローグの場
学習活動	1 本時の問題を把握し, めあてを見いだす。 問題 ゆりえさんの家から駅までの道のりをもとにすると, ほかの人の道のりはそれぞれ何倍ですか。 めあて 小数で表された場合に何倍かを求める方法を考えよう。	1 本時の問題を把握し, めあてを見いだす。 問題 今の体重は 630g で, これは生まれたときの 1.8 倍にあたります。生まれたときの体重は何 g でしたか。 めあて 小数で表された場合にもとにする量を求める方法を考えよう。	1 めあてを見いだす。 めあて これまでの学習を通して, 身に付けたことをまとめよう。 2 プロローグの場で未解決だった問題を解決する。 ・小数の乗除 3 問題作りをする。
内容	2 解決の見通しを立て, 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○比較量, 基準量が小数の場合の何倍かを求める方法 ・数直線図の活用 ・整数の場合の何倍かを求める方法を示した既習の掲示物の活用 3 考えを共有し, 本時学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○比較量, 基準量が小数の場合も何倍かは除法で求められること ・数直線図をもとにした説明 ・比較量と基準量が整数の場合と小数の場合の比較検討	2 解決の見通しを立て, 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○倍を表す数が小数の場合の基準量を求める方法 ・数直線図の活用 ・整数の場合の何倍かを求める方法を示した既習の掲示物の活用 3 考えを共有し, 本時学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○倍を表す数が小数の場合も基準量は比較量÷何倍で求められること ・数直線図をもとにした説明 ・整数の場合との比較検討	4 本時の学習をふり返る。 (第13時は評価)
○は考える内容 ・は考える方法	まとめ 小数のときも, 何倍にあたるかを求めるには, わり算を使います。	まとめ 小数のときも, もとにする量を求めるには, わり算を使います。	
	4 たしかめ問題を解決し, 本時の学習をふり返る。	4 たしかめ問題を解決し, 本時の学習をふり返る。	

5 本時の目標

- ◎ 図や除法の計算のきまりを用いて、既習の整数÷整数や小数÷整数のなどに関連づけて、整数÷小数（1 / 10位まで）の計算の仕方を考えることができる。（数考）

6 本時指導の考え方

本時は、これまでに学習してきた計算の仕方のアイデアを駆使しながら、整数÷小数の計算の仕方を自分で考えることを通して、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

そのために「見いだす」過程では、まず、既習の整数のわり算と関連づけて、小数でわることの意味を理解させるために言葉の式や数直線図を基に立式を行う。次に前単元を想起し、未習の部分が何かを明確にするための話し合いを行い、整数を小数でわる計算の仕方を考えていくことを確認し、めあてをつかませたい。

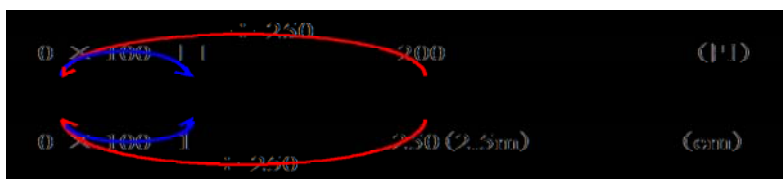
「つくる」過程における『自分の考えをつくる場』では、整数÷小数の仕方を既習を駆使しながら考えることができるようにしたい。

考える内容は、以下の3つの考えのうち、単位小数のいくつ分かに着目する考えと計算のきまりを用いて除数を整数化する考えのどちらかができるようにしたい。

ア) イ) 単位小数（0.1m）のいくつ分かに着目し、1mのねだんを求める考え。

ウ) エ) わり算の計算のきまりを用いて、除数を整数化し、既習の整数÷整数に式変形する考え。

オ) 単位換算を行い、1cmのいくつ分かに着目する考え



そのために、前単元である整数×小数で用いた単位小数のいくつ分の考えと乗数を整数化する考え、小数×整数、小数÷整数で用いたテープ図や数直線図を使う考えを既習として掲示しておくことで、自分の考えをつくる際の手がかりとできるようにする。また、考えの道筋が分かるようにするため、「考えのもとカード」と自分の考えを工夫して表現できるようにするための「かき方のわざカード」を活用し、整理できるようにする。さらに既習のわり算の計算のきまりも常掲しておく。

個に応じた指導として、自力解決を促す支援では、解決の手がかりとなる言葉とテープ図をかいたヒントカードをもとに考えをつくることができるようにする。また、考えを早くつくり終えた児童の支援としては、他の整数化するアイデアや表現方法にも挑戦させていく。

本時学習をふり返る場面では、整数÷小数の計算の仕方を、数人の児童に簡単に発表させる。また、自分の考えに自信がない児童に対しては、次時に同じ考えをしている友だちと交流し、考えを強化したり、付加、修正したりしていくことを伝える。

7 準備

教師：問題文、テープ図の拡大図、既習の掲示物、掲示用「考えのもとカード」、

掲示用「かき方のわざカード」、ヒントカード

児童：「考えのもとカード」・「かき方のわざカード」ファイル

5 本時の目標

- ◎ 整数÷小数の計算の仕方を、小集団による交流や全体による交流を通して比較検討しながら考えることができる。(数考)
- 整数÷小数の計算の仕方を理解し、その計算ができる。(知・理)

6 本時指導の考え方

本時は、整数÷小数の計算の仕方を、小集団による交流や全体による交流を通して比較検討し一般化していく中で、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

前時に児童は、これまでに学習してきた計算のしかたのアイディアを駆使しながら、整数÷小数の計算の仕方を自分で考えをつくってきている。教師は、一人一人の考えについて、どのような考えをしているか、考えが十分かの観点で分類整理し、全体による交流に生かせるような小集団を組んでおく。

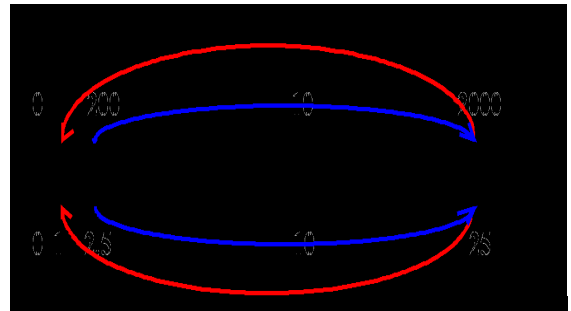
そこで本時は、「共有する」過程における『自分の考えを高め合う場』からの学習展開になる。

小集団による交流では、一人一人が自分の考えを説明する機会をもつとともに、同じ考えでも表現方法が多様にあることに気付くこと、考えが十分でない場合は、考えを付加・修正し、強化することを目的として行う。例えば、除数を整数化する考えでも、ウ) わり算の計算のきまりを使った考えとエ) 数直線図を使った考えがある。

ウ)

$$\begin{array}{l} 200 \div 2.5 = 80 \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 2000 \div 25 = 80 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} 200 \div 2.5 \quad 200 \times 10 \div 2.5 \\ (200 \times 10 \div 2.5 \times 10) \\ 2000 \div 25 \\ 80 \end{array}$$



そのために、考えの方法別で、同じ考えで表現方法が違う児童がいるような3人組で行う。また、交流を通して考えを十分にしている児童もいると思われるので、評価基準達成別も加味して組んでおく。交流を進める際の手立てとして、「グループでの話し合いのすすめ方」をカードにして全員にわたしておく。交流後には、自分の考えを見直したり、全体交流の準備を行ったりする。

全体による交流では、単位小数(0.1m)のいくつ分かに着目し、1mのねだんを求める考えを中心として比較検討していく。その際、それぞれの考えには、多様な表現方法を使うことが考えられるので取り上げていく。(その他の考えについては、児童の実態に応じて取り上げていく。)発表させた後は、それぞれの考えの関連性を検討するために、「似ているところ」「ちがうところ」の観点での交流を行う。続いて、考えの有効性を検討するために、どの考えも独立したよさがあることを実感できるようにする。その後、それぞれの考えの式の共通性に着目させることを通して、整数÷小数の計算の仕方を一般化できるようにする。

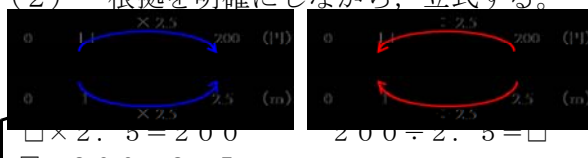
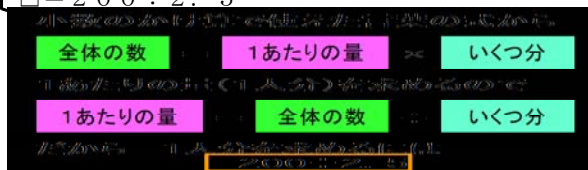

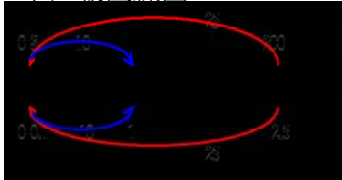
「まとめる」過程では、計算の仕方について分かったことを自分の言葉や式でまとめるようにする。また、たしかめ問題では、計算の仕方が理解できたかを確かめるために、途中の式を書くように指示する。

7 準備

教師：「グループでの話し合いのすすめ方」カード、小集団による交流の座席表

児童：「考えのもとカード」・「かき方のわざカード」ファイル

8 学習展開

過程	学習活動と内容	学習を促すための具体的な手立て
見 い だ す ／ つ	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>(1) 本時の問題について話し合う。</p> <p>— 問題 —</p> <p>リボンを2.5m買ったらい金は200円でした。このリボン1mのねだんは何円ですか。</p> <p>(2) 根拠を明確にしなが、立式する。</p>  <p>$\square \times 2.5 = 200$ $\square = 200 \div 2.5$</p> <p>$200 \div 2.5 = \square$</p>  <p>(3) 前時までに学習した問題と比較し、めあてを見いだす。</p> <p>— めあて —</p> <p>1mのねだんを求めて、整数÷小数の計算のしかたを考えよう。</p>	<p>○ 教師が具体的に演示することで、児童が問題場面を把握することができるようにする。</p> <p>○ 図的表現、言語的表現をもとに立式の根拠をかくように促す。</p> <p>○ 既習を想起し立式ができるように、前単元の掲示物を準備する。</p> <p>【立式の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数×小数の立式の根拠（言葉の式、数直線図） <p>○ 既習と未習の相違点を話し合う。</p>
	く る	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>【見通し】</p> <p><考えのもと> <かき方のわざ></p> <ul style="list-style-type: none"> 単位のいくつつ分 → 言葉で説明、テープ図、数直線図 わり算の計算のきまり → 式化、数直線図、テープ図 単位を変える → 数直線図 <p>【予想される考え】</p> <p>単位のいくつつ分かで、1mの値段を求める考え</p> <p>ア) テープ図</p> <p>1mは0.1mの10倍だから</p>  <p>0.1mの値段を求めるには</p> $200 \div 2.5 = 80$ <p>1mの値段なので</p> $8 \times 10 = 80$ <p>答え 80円</p> 
<p>【個に応じた支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決を促す支援として、言葉とテープ図をかいたヒントカードを渡す。 ○ 考えをはやくつくり終えた児童の支援として、多様な考えをつくるように促す。 		
	<p>3 自力解決について報告し、次時のめあてを見いだす。</p> <p>(1) 自分の考えを伝え合い、本時学習をふり返る。</p> <p>(2) 次時のめあてを見いだす。</p>	<p>○ 本時学習をふり返り、同じ考えをしている友達との交流の必然性を感じるような問いかけを行った後、次時のめあてを伝える。</p>

8 学習展開

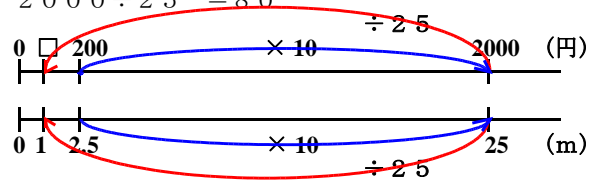
過程	学習活動と内容	学習を促すための具体的な手立て
共有	1 前時の学習をふり返り、本時のめあてを確認する。 めあて	○ 小集団による交流が必要であることを確認するために、自力解決の様子を伝え合う。
共有	グループによる話し合いと全体による話し合いを通して、整数÷小数の計算のしかたを考えよう。	
共有	2 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』	○ すぐに交流を行うことができるように、小集団を行う場所と司会を伝えておく。
共有	【小集団による交流】 目的：考えを説明する機会として→考えを強化するために→考えの類似、違いに気付くために→考えの多様性に気付くために 組み方：考えの方法別で（同じ考えで表現方法が違う児童で組む） ただし、同じ考えが2人以上いる場合は、評価規準達成別を加味する。（考えを付加・修正・強化する必要がある児童） 人数：3人組（4人組）	
すすめる	【全体による交流】－【発表する考え】 <p>単位のいくつ分の考えを使って 1 mの値段を求める考え</p> <p>わり算の計算のきまりを使って 除数を整数化する考え（10倍）</p> <p>類似・相違</p> <p>ア) テープ図を使って</p> <p>ウ) わり算の計算のきまりを使って</p> <p>類似</p> <p>イ) 数直線図を使って</p> <p>エ) 数直線図を使って</p> <p>類似</p> <p>式化</p> <p>単位を変えて計算する考え</p> <p>わり算の計算のきまりを使って 除数を整数化する考え（2倍，4倍）</p> <p>オ) 数直線図を使って</p> <p>カ) 数直線図を使って</p>	
／	【交流活動の流れ】 ① 全体交流において、ア～エの考えの順に代表の児童が発表する。 ② それぞれの考えの「似ているところ」、「ちがうところ」を出し合い、関連性に気付く。 ③ どの考えが「かんたん」「わかりやすい」「いつでも使える」かについて話し合い、どの考えでも計算の仕方がわかりやすいことを確認する。 ④ アの考えとウの考えを式化しそこから共通点を見だし、計算の仕方を一般化する。	
まとめ	ーまとめー 整数÷小数の計算のしかたは、わられる数とわる数を10倍し整数にして計算するとよい。	
共有	3 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。 (1) たしかめ問題を解決する。 (2) 学習感想を書く。	○ たしかめ問題は、計算の仕方を確かめるために、途中の式をかくように指示する。 ○ 小集団や全体交流で、考えを高め合うことができたか、視点を明確にして感想を書くようにする。

ア ②10倍する考え

$$200 \div 2.5 = 80$$

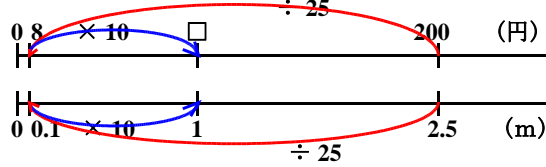
$$\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$$

$$2000 \div 25 = 80$$



イ 0.1mのいくつ分を使った考え

2.5mは0.1mの25個分
 0.1mのねだんは $200 \div 25 = 8$
 1mは0.1mの10個分なので
 1mのねだんは $8 \times 10 = 80$



$$200 \div 2.5 = 200 \div 2.5 \times 10$$

$$= 200 \times 10 \div 2.5 \times 10$$

$$= 8 \times 10$$

$$= 80$$

ウ 単位を変えてmをcmにする考え

2.5mは250cm
 1cmのねだんは $200 \div 250 = 0.8$
 1mは100cmなので
 1mのねだんは $0.8 \times 100 = 80$

